

私学協会会長賞

雨の大切さ

菊川市内小学校

四年 新井 さん

私は雨がきらいです。雨がふると外で遊べないし、足下はすべりやすい。それに去年は大雨のせいで県内のたくさんの人がひ害を受けたという話も聞きました。でも、前に読んだ本には、雨がふらなくてこまってしまった時代があったと書いてありました。そこで、雨が人にとって必要なものなのか、必要のないものなのかを考えてみました。そもそも、私たちが毎日使う水は元々雨水です。人間の体の六十パーセントは水分で出来ており、三日間水分をとらないと死んでしまうとも言われています。つまり、雨が全くふらないと人間は生きていけないという事になります。でも、全くふらないという事は考えにくいので、雨が少なかったらどうなるか考えてみました。雨が少なくなると、田んぼが干からびてしまい、お米や畑の野菜が出来なくなってしまう。また、川や池の水がへることで生き物たちが生きていけなくなってしまう。さらには、いろいろな物を作る工場でもたくさんのお水を使うので、物が作れなくなってしまう。私たちの生活でもお風呂やトイレ、水道から十分な水が出なくなってしまう。水を使わない日は一日もありません。このように、雨が少なくなると、自然でも私たちの生活でもこまることがたくさん出てくる。ことが分かりました。寒さに数年前にほとんど雨がふらなかった時には、夏のプールが中止になったり、たくさん

の工場が止められたり、野菜があまり作れなかったことでねだんが上がったりしたこともあるそうです。私はプールが好きなので、考えただけでも悲しい気持ちになります。ふだんはめいわくに思っている雨でも私たちの生活にはとても大切だという事が分かりました。不足しても困るけれど、ふりすぎてもこまってしまう雨をちょうど良くふるせることは出来ないのでしょうか。

実さいに数十年前とくらべ、雨がふる日がへり、一度にふる量がふえ、雨によるさい害がふえているそうです。その原いんは地球温だん化にあります。つまり、地球温だん化を止めることが、ちょうど良い雨をふるせることにつながるのではないかと考えました。子どもの私に出来る対さくとして、ゴミをふやさないように水とうやエコバッグを持ち歩く、食べ残しをしない、無だな電氣を使わないように早ね早起きをする事などを意識していきたいです。

私はもう、雨がきらいではありません。雨は私たちの生活に必要なものだという事が分かったからです。水がどのようにに私たちの元にとどいているのか、どうしたら、大雨によるさい害を止める事が出来るのかをたくさんの方が知り、かんきょうを大切に人がふえたらいいなと思います。